



市民の誓い 私たちは 水を生かし 緑を広げ 安全に努め 心を育て 助け合います



市マスコットキャラクター おがっきい&おおむちゃん

奥の細道むすびの地記念館 入館者 100万人達成!!



開館から4年 俳句文化を発信

平成24年4月にオープンし、開館5年目を迎える奥の細道むすびの地記念館。5月4日に入館者が100万人に達し、記念のセレモニーが行われました。

100万人目となったのは、「水の都おおがきたらい舟」の乗船を目的に横浜市から観光で訪れていた宮代さんご家族。小川市長らとともにくす玉を割り、100万人達成を祝いました。

その後、宮代さんには、市長から大垣市の特産品と、100万人目認定証などが贈られました。また、その前後の入館者にも記念品が贈られ、記念写真の撮影などが行われました。



館内を見学する100万人目の宮代さんご家族

養老線は新事業形態へ

～沿線市町と近鉄が確認書に署名～

養老鉄道の存続に関しては、平成26年から検討が続けられてきました。

今年3月には、沿線3市4町の首長、近畿日本鉄道(株)社長、養老鉄道(株)社長の会談により、事業形態変更に関する基本合意がなされ、5月6日、基本的な方針を定めた確認書の署名式が行われました。

これにより、平成29年中を目途に、沿線市町などが出資して設立する法人が、近畿日本鉄道(株)に代わって鉄道施設を保有・管理し、運行はこれまで通り養老鉄道(株)が担う体制へ移行することになります。

詳しくは、養老鉄道活性化協議会事務局(生活安全課 ☎47-7386)へ。

養老鉄道活性化協議会 沿線市町

大垣市、桑名市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町

～防災ガイドブック～

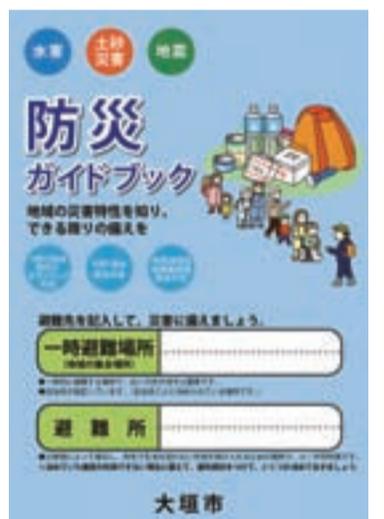
今一度、確認を!!

一連の地震活動で、震度7が2回発生した熊本地震。大垣でも、こうした災害がいつ発生してもおかしくありません。

災害が起こったとき、適切に行動できるよう、市は「防災ガイドブック」を作成しています=右写真=(平成26年7月に広報と同時配布)。今一度、各家庭や職場で、災害発生時の行動や最寄りの指定避難所、避難方法などをご確認ください。

この「防災ガイドブック」は、生活安全課または、各サービスセンターでお渡ししています。また、市HPからも閲覧できます。

詳しくは、生活安全課(☎47-7385)へ。



5月15日号 主な内容

- ▶春の叙勲・褒章、年金生活者等臨時福祉給付金、エコな暮らしの補助制度など …2～3P
- ▶耐震診断などの補助制度、ものづくりリーダー育成講座など…4～5P
- ▶催しのお知らせ、子育て情報 …6～7P
- ▶かがやき出前講座、市民伝言板など …8～9P
- ▶健康ガイド …10～11P
- ▶守屋多々志美術館第62回企画展、水防工法大会、金生山姫螢観察会など …12P

ここ20年、阪神淡路大震災から、新潟県中越地震、東日本大震災、そして熊本地震と大地震が発生しており、日本列島の活断層が活動期に入ったのではないとも言われています。私たちの地域においても、南海トラフ巨大地震が懸念されています。本市では、小中学校の耐震化は完了しましたが、保育園などの耐震化・改築を行うとともに、災害対策本部となる市庁舎の早期建て替えを推進し、さらなる安全・安心のまちづくりを進めてまいります。

熊本県から大分県にかけては、まだ余震が続いており、地震の発生場所が活断層に沿って広がっているのが気がかりなところです。

また19日には、熊本県内で産業や観光などで関わりのある宇土市、菊池市、八代市に、必要な物資を確認したうえで、飲料水や紙コップ、トイレットペーパー、ブルーシートを送りました。その後、22日と25日には、建築課より建築物や宅地の危険度判定士を派遣したほか、被災者に対し、和合の市営住宅13戸を提供するための受付を開始しました。

この地震を受けて本市では、18日に市民病院より災害派遣医療チーム(DMAT)として6人を派遣したほか、市内各所に募金箱も設置しました。

4月14日午後9時26分、熊本において震度7の地震が発生しました。翌日には震度6強、さらに16日午前1時25分には、マグニチュード7.3、最大震度7の地震が発生しました。被災された皆さんには、心よりお見舞い申し上げます。

熊本地震について



市長のなかまズメン 大垣市長 小川 敏